

第12期 年次報告書

ANNUAL REPORT



2024.7 - 2025.6

MESSAGE

すべての子どもに自分らしい学びを～私たちの思い～



代表理事 草場 勇一

第12期も、認定NPO法人工デュケーションエーキューブの活動を温かく見守り、支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。皆様のご支援が、私たちの大きな力となっていることを改めて実感する1年でした。

第12期における最大の進展は、私たちが休眠預金を活用した資金分配団体として採択されたことです。これは、第11期から挑戦してきたプラットフォーム事業が大きく前進したことを意味します。これにより、私たちの活動は福岡の地を越え、佐賀・長崎・大分といった九州の仲間たちと共に、地域に根ざした「学校以外の多様な学びの選択肢」を創出し、広げていくプロジェクトを本格的に始動させることができました。

現代は、予測困難で変化の激しい時代を迎えています。このような時代にあって、子どもたちに求められる力も、従来の知識の習得から、自ら問いを立て、他者と協働しながら創造的に課題を解決する力へと大きくシフトしています。

これからも、「子どもたちが自分らしく幸せに生きていく社会」の実現を目指し、九州各地の多様な学びの場を支えるプラットフォームとして、歩みを止めることなく挑戦を続けてまいります。皆様の変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。

日頃より温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

私は唐津市という小さな町で育ち、決して裕福ではなかった両親が私立高校への進学を支えてくれたことで、今の自分があります。その経験から、教育の機会が人生を大きく左右することを実感しています。そして、それは「偶然の幸運」であってはならないと強く思っています。すべての子どもたちが、安心して自分らしく学べる環境と、未来を拓く力を育む機会を等しく持てる社会を目指したい。その思いが、私の活動の原点です。

今年は私の故郷である佐賀県など他県のオルタナティブスクールへの支援も始めました。私たちの取り組みが地域に根付き、子どもたちの学びの場が広がっていく様子を見守る中で、支援の輪が少しずつ広がっていることに深い喜びを感じています。こうしている間にも、ひとりの子どもの可能性が閉ざされてしまうかもしれない—そんな危機感を胸に、私たちはこれからも挑戦を続けてまいります。

引き続き、皆さまの温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



副代表理事 佐村 礼二郎

NPO PROFILE

VISION

子どもたちが自分らしく
幸せに生きていける社会に



MISSION

誰もが参加できる
公正な教育の場を提供する

名称	認定NPO法人工エデュケーションエーキューブ (Education A³)
所在地	福岡県福岡市西区野方1-19-33
設立	2013年8月2日
代表理事	草場勇一
副代表理事	佐村礼二郎（エーアイキャピタル（株） 代表取締役CIO）
理事	伊藤尚穀（アントキャピタルパートナーズ（株） マネジングパートナー）
理事	松永圭世（プラットフォーム事業担当）
監事	伊藤雅浩（シティライツ法律事務所 弁護士）
監事	山本教貴（山本公認会計士事務所）
スタッフ	11名
事業内容	学校に代わる選択肢となるオルタナティブスクール運営

OUR HISTORY

12年の挑戦と進化～学びの新たな形へ～



LOGIC MODEL

ミッション実現ためのロジック

「すべての子どもたちが自分らしく幸せに生きる社会」を実現するため、具体的な活動や成果をステップごとに明確化し、私たちは着実に社会的インパクトを生み出します。



SOCIAL ISSUES

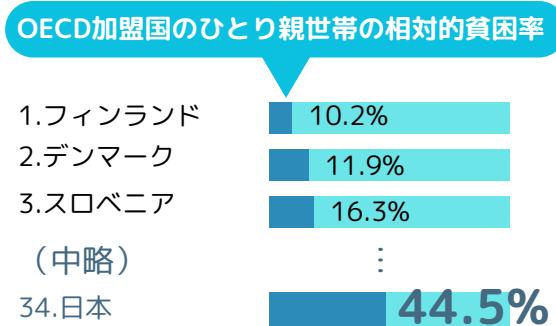
私たちが取り組む社会課題～貧困がもたらす教育格差～

日本では、多くの子どもたちが貧困に苦しんでいます。特に、ひとり親世帯の子どもたちは、世界的に見ても厳しい状況に直面しています。この現状は、教育や体験の格差を生み出し、子どもたちの将来の選択肢を狭めるだけでなく、貧困の固定化をもたらしています。

01 日本では、約9人に1人の子どもが貧困状態にあります

2021年国民生活基礎調査（厚生労働省）によると、日本の子どもの相対的貧困率は11.5%であり、約9人に1人が相対的貧困状態にあることが示されています。

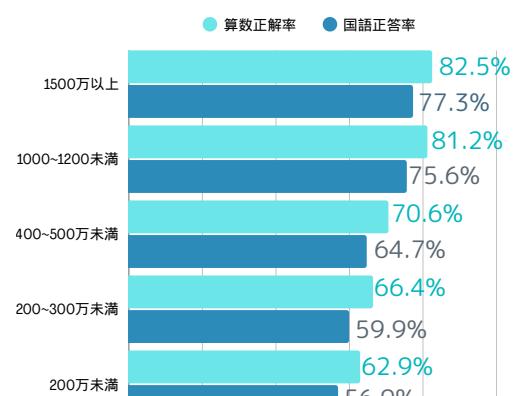
ひとり親家庭の状況はさらに深刻です。内閣府のデータによると、日本のひとり親家庭の相対的貧困率は44.5%であり、OECD加盟国36カ国中34位という懸念すべき水準となっています。日本のひとり親世帯の就労率は高いため、就労しても貧困から抜け出せない状況が指摘されます。



出典：内閣府男女共同参画白書令和7年版（p.139）
「ひとり親世帯の貧困率の国際比較」

02 経済的背景が教育格差につながる

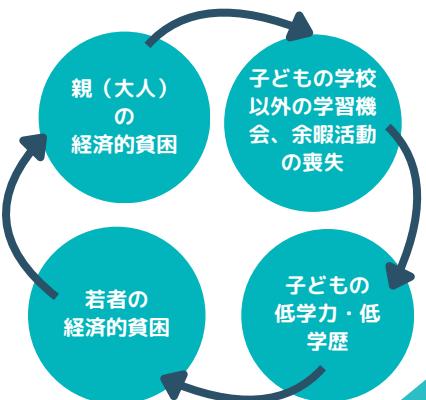
世帯収入は学力と非常に高い相関関係にあります。これは、他の子どもたちのように塾に通わせる余裕がないことや、落ち着いて勉強できる家庭環境がないこと、そしてより低年齢のうちに家庭で培われる生活習慣や基礎的な学力が不足することによるものです。



出典：お茶の水女子大調査

03 世代を超えて貧困は固定化する

家庭の経済格差は、子どもたちから学習や様々な体験活動の機会を奪うことに繋がります。加えて、新しい時代に必要な知識やスキルを得る機会も制限します。教育機会に恵まれず低学力・低学歴になってしまった子どもたちは、社会に出た時に低所得の職業に就かざるを得ず、その結果、貧困は世代を超えて連鎖し、固定化してしまいます。



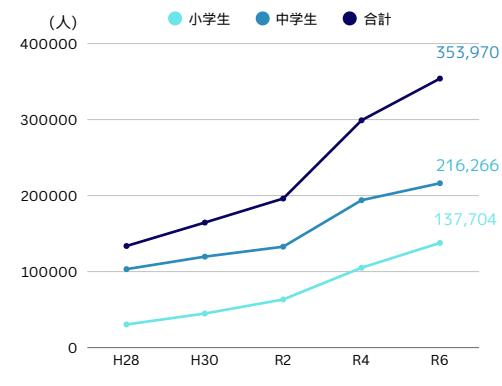
SOCIAL ISSUES

私たちが取り組む社会課題～不登校と貧困の関係～

不登校問題の深刻化により、多くの子どもたちが孤立し、義務教育すら十分に受けられない状況に置かれています。学校以外の学びの場を求める子どもたちの数が増加し続ける一方、日本ではフリースクール／オルタナティブスクール等（以下、FS等）の学校に代わる選択肢の認知度が低く、また、様々な理由から学校以外の学びを容易に選択できない状況が続いている。

01 増え続ける不登校の子どもたち

2024年度における小・中学校の不登校児童生徒数は全国で353,970人に上り、増加率は前年比で抑えられたものの、今年も過去最多を更新しました。そのうち約54%にあたる191,958人が年間90日以上欠席しており、義務教育を十分に受けられていない状況に陥っています。これは、子どもたちの将来や社会全体への影響を考えると看過できない事態です。



出典：文部科学省調査

02 フリースクール等に対する社会的理の不足と高額な授業料

FS等は、学校に代わる学びの場の選択肢の一つであり、一定の条件を満たしたFS等への通学は学校への出席と同等の扱いを受けることができます。しかし、保護者や教員も含め、社会全体にはいまだ「学校に行くべき」という古い価値観が残っています。そのため、FS等のような多様な学びの場への認知や理解が十分に進んでいません。

また、FS等には公的補助がほとんどないため、授業料が全額家庭負担となるケースがほとんどです。授業料の高額化で平均月額が50,000円を超え、経済的に余裕のない家庭ではFS等を選択することが難しくなっています。

主要フリースクール等の平均授業料
(福岡市近辺で毎日登校のケース)

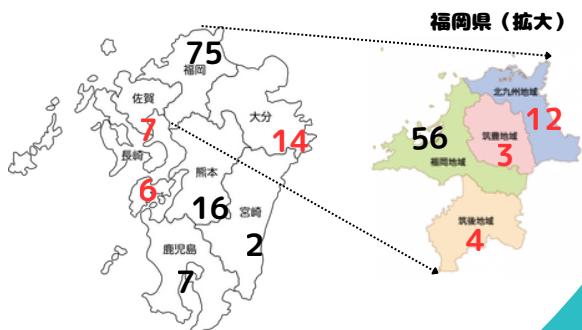
月額 54,104円

出典：2024年当法人調べ

03 フリースクール等の数と質の問題

増え続ける不登校児童生徒数に対し、FS等の数が不足していることも問題です。FS等には運営費等の公的支援がないことから、その負担が重く、持続可能な運営が困難になります。そのため、例えば九州地域において90日以上の長期欠席児童生徒数は18,558名ですが、FS等の数は127校です。その約60%が福岡に集中しており、地方では圧倒的に数が不足しています。

また、学習活動の時間が極端に少なかったり、居場所づくりに注力しているケースもあり、公教育と同等であるとは言い難い状況もみられます。

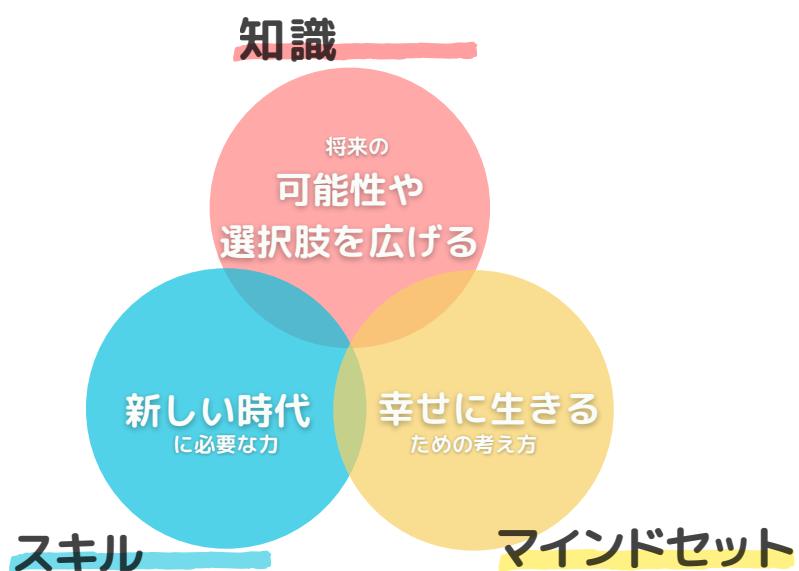


出典：不登校支援サイト「未来地図」、
福岡県リーフレット,北九州市HP他

STUDY PLACE

学校の代わりになる新しい場所 オルタナティブスクール 「スタディプレイス」

スタディプレイスは、子どもたちが“新しい時代”をその子らしく幸せに生きていくために必要な“知識・スキル・マインドセット”を得る学びや体験を提供する“オルタナティブスクール”です。スタディプレイスに通うすべての子どもたちが、所属校の出席扱いになっています。



The page features three main sections with icons and descriptive text:

- ICTを活用した個別最適化学習**
ICTを活用し、目標や学力に合わせて個別最適化された学びを提供しており、自分のペースで学べます。
- 新時代に必要な学び・体験**
新しい時代に必要な知識やスキルを身につけることができる学び・体験の機会を提供しています。
- 費用負担が少なく誰もがアクセスできる**
経済的に厳しい環境の子どもでも利用できるよう、独自の奨学制度を提供しています。

STUDY PLACE

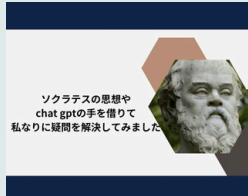
未来を見据えた多様なカリキュラム

ICT/AIを活用した個別最適化学習



子ども一人ひとりにiPadを配布し、それぞれの目標や学力に応じて自分のペースで学べる環境を整えています。また、AIを活用して疑問点を調べたり質問したりすることで、最新のテクノロジーを活用しながら、楽しい学びをサポートしています。

探究学習



子どもたちが自身の興味や関心に気づき、将来の目標を見つける手助けとして、探究学習に注力しています。ゼミ形式や自由なテーマでの調査を通じて、子どもたちの興味や関心を広げるサポートを行っています。

キャリア教育



子どもたちが未来に思いを馳せ、夢を抱く助けるとなるよう、自分らしさを発揮している方々をお招きし講演を行っていただく「魅力的な大人プロジェクト」を実施しています。今期は、起業家の方々などをお迎えしたほか、NPO法人キャリアbase様のご協力の下、中高生向けの進路セミナーも実施しました。

グローバルシチズンシップ教育



次世代を担う子どもたちの将来の可能性を広げるために、海外に興味を持てる機会を提供しています。フランスやボスニア、韓国など、様々な国のゲストスピーカーとZoomで繋ぎ、クイズ等を通じて各国の文化を紹介していただき、コミュニケーションを取りながら楽しく知見を広げることができました。

プロジェクト学習



PBL（プロジェクトを通じた多様な学び）の一環で、今年もGAP様のご協力の下、古着販売のフリーマーケットを実施しました。今年は初めて他団体とのフリーマーケットに参加し、子どもたちは準備から当日の接客まで幅広く担当することで、貴重な生きた学びを得ました。

校外活動



多様な体験を通じて学びを深めるため、月に1回のペースで校外活動を行っています。博物館や動植物園で「本物」に触れる体験、プールやアイススケートなどの体を動かす活動に加え、卒業キャンプや川遊びなどの自然と触れ合う体験など、今期も多彩な活動を実施しました。

PLATFORM PROJECT

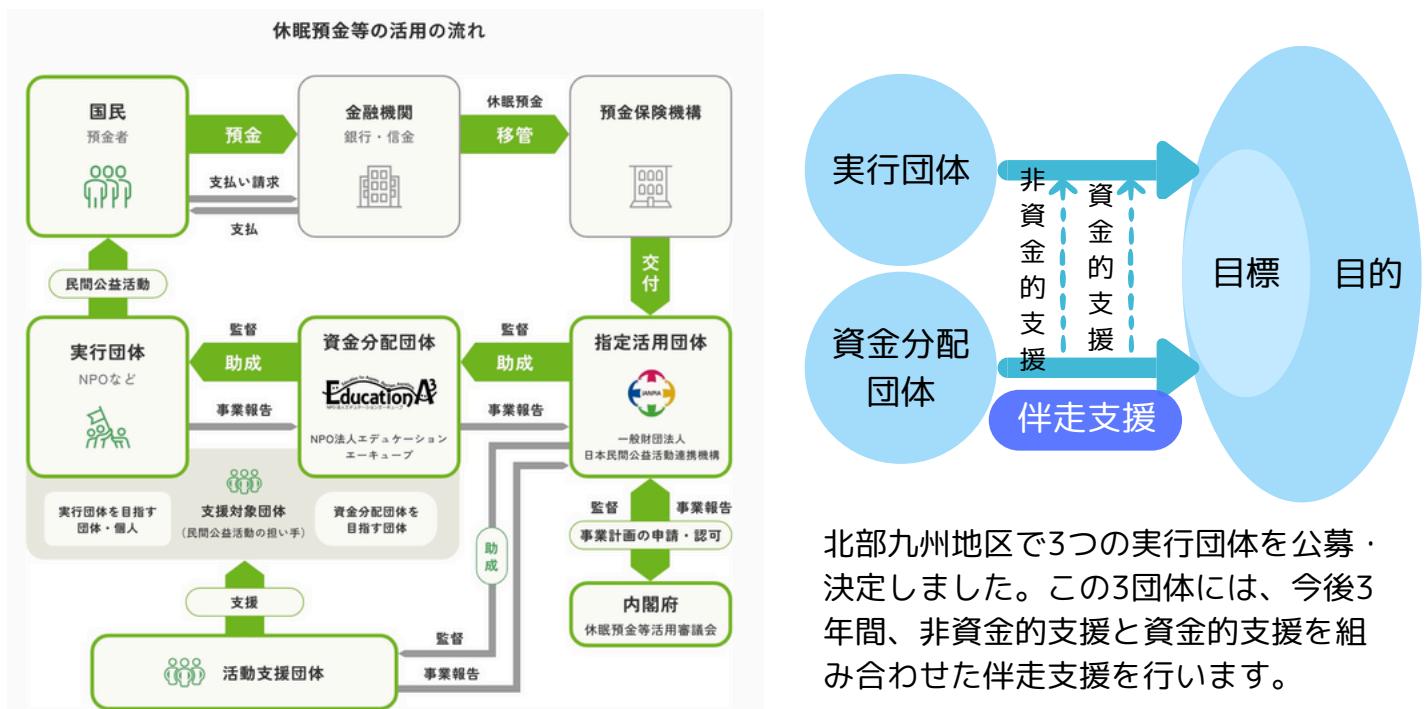
日本全国で学校以外の学びの選択肢を広げる オルタナティブスクールのプラットフォーム事業

全国のすべての子どもたちが、学校以外の選択肢にアクセスできるようになるために、全国でオルタナティブスクールの設立を目指す人々を支援するためのプラットフォーム構築を進めています。



「地域格差と貧困を超えるオルタナティブスクール創出事業」

休眠預金等活用事業の草の根活動支援事業において、資金分配団体に選定されました。



北部九州地区で3つの実行団体を公募・決定しました。この3団体には、今後3年間、非資金的支援と資金的支援を組み合わせた伴走支援を行います。

休眠預金等活用事業とは

「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」(休眠預金等活用法)に基づき、2009年1月1日以降の取引から10年以上その後の取引のない預金等（休眠預金等）を社会課題解決や民間公益活動促進のために活用する制度です。



PLATFORM PROJECT



実行団体の助成事業概要

わたしたちが資金分配団体として取り組む「地域格差と貧困を超えるオルタナティブスクール創出事業」の実行団体として、3団体を採択しました。実行団体の皆様を、共に未来を創る「イコールパートナー」としてお迎えし、互いに手を取り合いながら、子どもたちのための多様な学びの選択肢を一つでも多く増やしていくよう、全力で伴走してまいります。

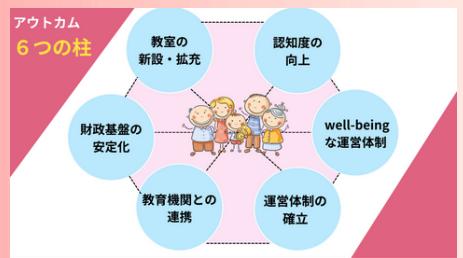


認定NPO法人 ここのね

大分県南部・中部地域で不登校や学校に違和感を抱く子どもに安心して学べる場を広げ、「学校外の学び」を地域社会が当たり前に受容する文化を醸成することを目的とします。既存校の拡充と送迎車導入により定員を45名へ拡大し、2029年度までに大分市内に新拠点を開設して計70名体制を整備します。奨学金基金を造成し低所得世帯を支援、ロケット教室とSTEAM探究カリキュラムや選択理論心理学サービスを通じて学びとウェルビーイングの質を高めます。行政・企業・大学・議会と連携プラットフォームを運営し、モデル拠点を九州全域へ水平展開することで、子どもの主体的学びと地域共生の新しいスタンダードを創出します。

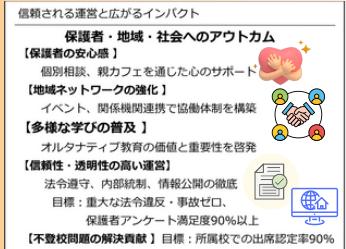
一般社団法人 おうち楽幸

不登校や学校外での学びを必要とする子どもたちに安心できる居場所と多様な学びの機会を提供し、地域・学校・保護者が一体で支える仕組みの構築を目指します。1年目は小学生部門の充実と中学生部門開設準備、ICT環境整備や事務体制強化を行います。2年目に中学生部門を開校し、約20名の受け入れ体制を確立、地域に根ざした多様な学びを広げて行きます。3年目には不登校支援や施設運営のノウハウを共有し、地域全体で子どもたちを支えるネットワークの構築を目指します。また、学校との連携を深め、早期支援につなげる仕組みをつくります。



一般社団法人 コドトモ

不登校など学校に通わない子どもたちに絵画や音楽などの自己表現を通じて学びへの意欲を育むオルタナティブスクールを設立し、安心して成長できる場を提供することを目的とします。質の高い教育はもちろん、子どもたちの個性や才能を伸ばし、自己肯定感を育むことを重視します。本事業は①子どもの成長支援、②保護者支援、③地域連携、④自団体基盤強化を柱に進め、持続可能な学びの場を社会に根づかせていきます。令和7年9月からの調査・広報活動を経て、令和8年1月に体験会を実施、同年4月に本格開校を目指します。



ACCOMPLISHMENTS

12期の活動報告

01. 休眠預金活用事業の資金分配団体に選定されました

プラットフォーム事業の一環として、休眠預金活用事業の草の根活動支援事業の資金分配団体に応募し、採択されました。学校という選択肢を選ぶことができない子どもたちが増え続けている今、学校以外の学びの選択肢を増やし学びの経済的・地域的格差を解消することを目指し、九州北部地域で活動する3法人を対象に3年間の伴走支援を行います。これまでに培ったスクール運営のノウハウに加え、休眠預金活用事業の資金的支援を提供することで、持続可能な“学校の代わり”となる学びや体験の事業モデルを構築していきます。



02. ヌビーン社（米年金運用会社）サポートによる金融教育の実施

ヌビーン・ジャパン株式会社にご協力いただき、金融教育を実施しました。寄贈いただいたボードゲーム「Nuveen-opoly」（ヌビーン社が実際に投資している不動産が登場するモノポリー）を活用し、投資の仕組みや不動産投資について教わった後、全員でゲームをプレイしました。サポートいただいたヌビーン社スタッフの方々が驚くほど、子どもたちは不動産の取得や価格交渉を実践し、楽しく投資の知識を学ぶことができました。



03. FFG調査月報「さすてなすとーアー」に掲載されました

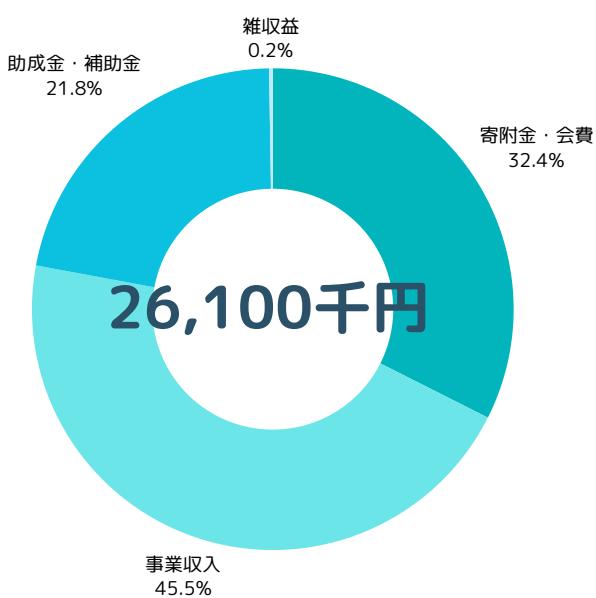
福岡フィナンシャルグループ（FFG）が発行する「FFG調査月報」2025年4月号にて、私たち認定NPO法人エデュケーションエキューブの取り組みが紹介されました。「FFG調査月報」は、FFGグループの取引先を中心に、地域の企業や団体へ配布されている広報誌です。この記事を通じて、「学校に通えない子どもたちの増加」という社会課題や、「学校以外の選択肢」としてのオルタナティブスクールの存在について、より多くの方に知つていただける貴重な機会となりました。信頼ある地域金融機関の媒体に取り上げていただけたことは、私たちの活動への信頼の証でもあり、これまでご支援くださった皆さまのおかげです。私たちのビジョンや教育支援活動について丁寧に取材していただきましたので、是非記事をご覧いただけますと幸いです。



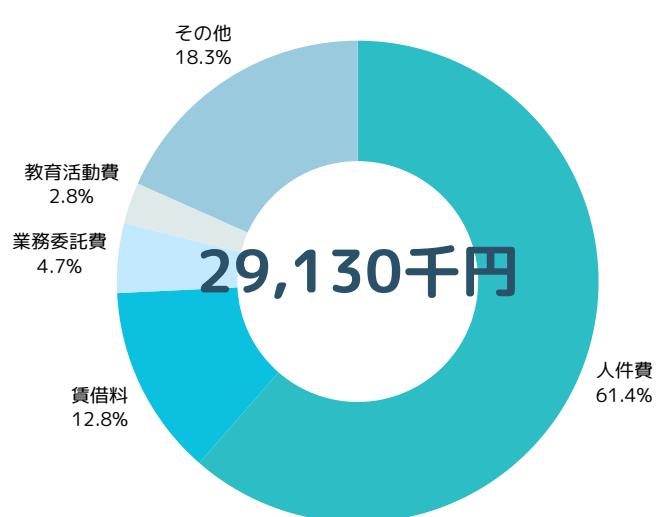
記事はコチラから

FINANCIAL DATA

収入の内訳



支出の内訳



第12期の収入は、26,100千円となり、前年度比で88%にとどまり、減収となりました。寄付収入と会費を合わせた金額が8,465千円、また休眠事業の開始により助成金などの収入が5,700千円となり、これらは予算を上回りました。しかしながら、事業収入については、春日原校・箱崎校の生徒数が伸び悩み11,870千円と、計画を下回る結果となりました。

第12期の費用は、前年比横ばいの29,130千円となりました。内訳は、教室運営スタッフと休眠預金事業の開始により人件費が増加、管理部門を含めて17,893千円となり、前年比110%となりました。その結果、当期経常増減額は▲3,030千円の赤字決算で着地いたしました。

活動計算書及び貸借対照表がエデュケーションエーキューブの2025年6月30日をもって終了する事業年度について業務執行状況、経営の状況及び同日現在の財務状態を適正に表示しているものと認めます

監事 伊藤 雅浩
シティライツ法律事務所
弁護士

監事 山本 教貴
山本公認会計士・税理士事務所
公認会計士／税理士

SCHOLARSHIP

学びの機会をすべての子どもたちへ

スタディプレイスの奨学制度は、児童扶養手当を受給しているひとり親世帯や生活保護世帯、また様々な事情で経済的な困難を抱えている世帯を対象に、授業料の50～70%を免除しています。

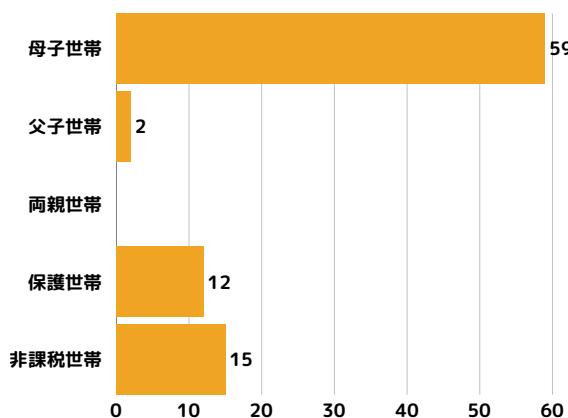


アンケート結果

世帯背景 ひとり親世帯が93.8%を占め、養育費を受給したことがない世帯が57.4%

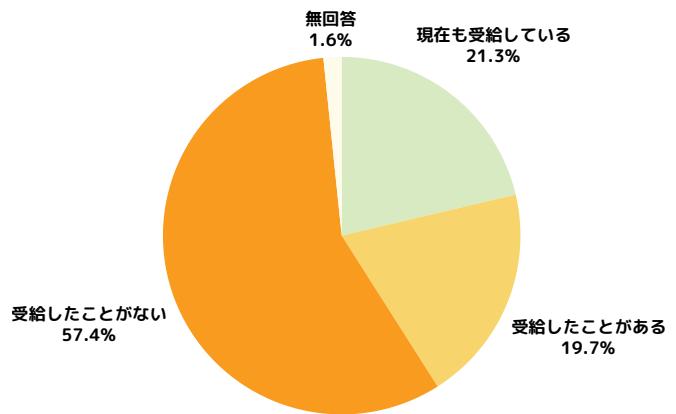
[現在もしくは奨学金制度利用時の世帯状況を教えてください]

65件の回答



[養育費の受給状況について教えてください]

61件の回答

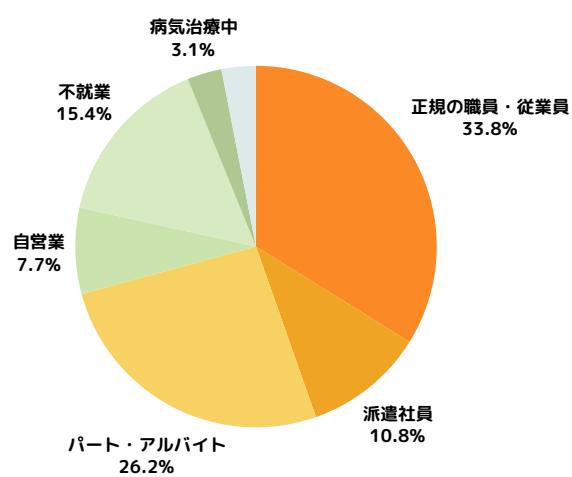


就業状況と世帯年数

就業している保護者が78%を占めるが、年収300万円未満が95%

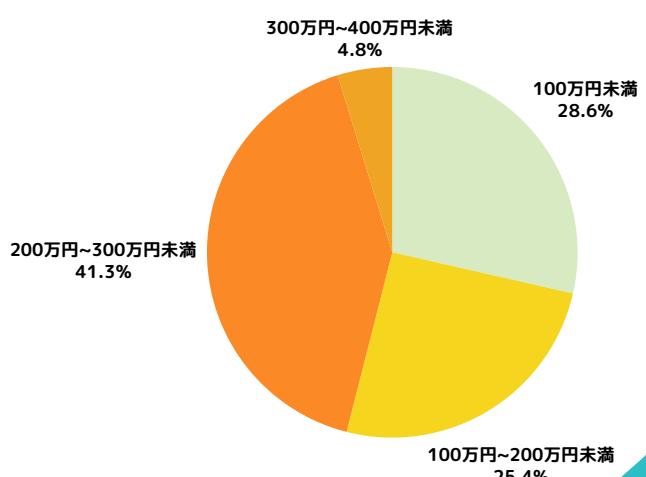
[現在もしくは奨学金制度利用時の就業状況を教えてください]

64件の回答

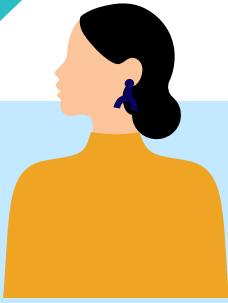


[昨年度の平均年収について教えてください]

63件の有効回答



VOICE



もし奨学制度がなければ、
今の子どもの笑顔はなかった・・・

特別奨学制度 利用者の声

特別奨学制度を適用してくださっていることについて、大変有難く思っており、親子ともども救われております。

3年ほど前にひとり親となり、児童扶養手当の支給など公的な支援は受けさせていただいておりますが、物価高騰や上の子の高校受験といった背景もあり、経済的な不安を常に抱えているのが正直なところです。

そんな中、子どもが不登校となりました。元々サポートが必要な部分があったので、「中学の学習進度や量はちょっと大変かもしれない」と感じてはいました。

学校のサポートクラスや公的な支援教室など、面談や見学に出掛けるものの、「通ってみたい」という気持ちにはなれないようで、私も悩み、焦り、うまくいかないライラ、子どもを「普通」という枠に押し込めようとしている自分に対する葛藤で「このままではいけない」という思いが募るばかりでした。フルタイムで上の子も外出がちなので、10時間以上1人家で何もせず過ごさせている日々にも「なんとかしなくては」という思いでいっぱいでした。

お金のことは二の次三の次、とはいかない状況の中、スタディプレイスさんのホームページに辿り着き、魅力的な教室やカリキュラムを拝見し「ここだったら行きたいと言ってくれるかもしれない」と感じました。料金表を見て胃がキュッとなったあと、特別奨学制度の文字が目に留まり、どれだけ有難く感じ安堵したかわかりません。

その後、教室に見学に行った際、子どものずっと暗かった顔がぱッと明るくなり、「通ってみたい！」と言ってくれ、今があります。そこからも一進一退ありながらも、ようやく軌道に乗りつつあります。自分はダメなんかじゃない、前に進もう、という気持ちに向かっているな、と感じています。

もし、奨学制度がなければ、今の子どもの笑顔はなかったかもしれません。

この環境は当たり前ではないという感謝の気持ちを胸に、自信を持って子どもを社会に送り出せることができるよう、親である私の経済的自立への努力が必要であることも忘れずに、子どもとの日々を大切に過ごさせていただきたいと思っております。

もし叶うならば、今後ご支援者様へ直接お礼をお伝えさせていただける機会がありますと、大変嬉しく思います。

DONATION

社会的投資として次世代を担う子どもたちを応援してください！



私たちは認定NPO法人です。認定NPO法人への寄付は、税制優遇の対象になります。

マンスリーサポーター

1,000 円/月

2,000 円/月

3,000 円/月

5,000 円/月

10,000 円/月

一回のみのご寄付・企業様からのご寄付も大歓迎です！
詳しくはエデュケーションエーキューブウェブサイトから！>>>



〒819-0043 福岡県福岡市西区野方1-19-33

🌐 <http://education-a3.net/>

✉️ info@education-a3.net

FACEBOOK PAGE: <https://www.facebook.com/Education.A3/>

INSTAGRAM: [education_a3](https://www.instagram.com/education_a3/)